



平成 26 年 10 月 31 日

各 位

会社名 富士興産株式会社
 代表者名 代表取締役社長 金丸 勇一
 (コード番号 5009 東証一部)
 問合せ先 取締役経理部長 松崎 博文
 (TEL. 03-3861-4601)

平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想との差異
 および通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 26 年 5 月 14 日に公表した平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間（平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日）の業績予想値と、本日公表の第 2 四半期累計期間の実績値において下記のとおり差異が生じたので、お知らせいたします。

また、最近の業績動向等を踏まえ、通期業績予想につきましても修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 27 年 3 月期第 2 四半期累計期間業績予想との差異（平成 26 年 4 月 1 日～平成 26 年 9 月 30 日）

(1) 連結

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	48,000	200	250	140	16.02
実 績 値 (B)	38,646	△91	△37	△17	△1.98
増 減 額 (B - A)	△9,353	△291	△287	△157	
増 減 率 (%)	△19.5	—	—	—	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 26 年 3 月期第 2 四半期)	41,407	190	256	188	21.60

(2) 個別

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	47,000	150	270	170	19.45
実 績 値 (B)	37,536	△174	△48	△20	△2.32
増 減 額 (B - A)	△9,463	△324	△318	△190	
増 減 率 (%)	△20.1	—	—	—	
(ご参考)前期第 2 四半期実績 (平成 26 年 3 月期第 2 四半期)	40,372	71	209	177	20.31

2. 平成 27 年 3 月期通期業績予想数値の修正（平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日）

(1)連結

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	116,000	900	1,000	600	68.66
今回修正予想（B）	100,000	600	710	450	51.49
増減額（B-A）	△16,000	△300	△290	△150	
増減率（％）	△13.8	△33.3	△29.0	△25.0	
（ご参考）前期実績 （平成 26 年 3 月期）	100,395	595	680	460	52.69

(2)個別

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	113,000	700	900	550	62.94
今回修正予想（B）	97,000	380	580	360	41.19
増減額（B-A）	△16,000	△320	△320	△190	
増減率（％）	△14.2	△45.7	△35.6	△34.5	
（ご参考）前期実績 （平成 26 年 3 月期）	98,153	399	562	388	44.41

3. 差異および修正の理由

当第 2 四半期累計期間におきましては、当社グループのコア事業である石油事業において、製品仕入価格の上昇により増加したコストの製品販売価格への転嫁に力を入れ、営業活動を進めてまいりました。しかしながら、高値による需要減少や春先の気温上昇などの影響により販売数量は計画を大幅に下回り、また、仕入コストの価格転嫁も十分とは言えず、損益面では厳しい状況が続きました。

この結果、連結業績では、石油事業における販売数量減少の影響などにより、売上高は計画を下回り、損益面では損失を余儀なくされました。

なお、通期の業績予想につきましては、第 2 四半期累計期間の実績と原油価格の変動を考慮し変更いたしております。

また、個別の業績差異および通期業績予想の修正につきましても、連結と同様の理由によるものであります。

（注）上記の予想はあくまでも本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上